

男女共同参画の画期的な取組み－シウダ・ムヘール 「女性の街」

エルサルバドル共和国大統領補佐官 バンダ・ピニャト

はじめに

本稿は2014年9月11日に、日本記者クラブに於いて、米州開発銀行（IDB）東京事務所と駐日エルサルバドル共和国大使館の共催で開催されたセミナーの記録である。同セミナーはキーノートスピーカーとして、日本国政府と民間団体共催の「女性が輝く＜社会に向けた国際シンポジウム＞」に参加のため来日中のエルサルバドルのバンダ・ピニャト社会統合（ソーシャル・インクルージョン）担当大統領補佐官を、パネリストとして森まさこ前男女共同参画担当大臣と猪口邦子元内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画）を迎えて開催された。

ピニャト補佐官は前フネス大統領の閣僚として「シ

ウダ・ムヘール」のプロジェクトを企画、実施し現在に至る。その功績によりフランスからレジオンドヌール勲章、米国議会の Ellis Island 賞を受



ピニャト大統領補佐官（左から二人目）

けており、同プロジェクトはメキシコなど近隣諸国でも展開されるようになった。

ここにピニャト大統領補佐官の講演を掲載するに当たり、エルサルバドル共和国マルタ・リディア・セラヤンディア・シスネロス駐日大使¹に序論を頂いた。

セラヤンディア駐日大使序論

エルサルバドルの前政権が導入し、成功プロジェクトとされているシウダ・ムヘール（女性の街）についてここに紹介する機会を得たことをうれしく思う。本プロジェクトは女性を対象としたプロジェクトではあるが、女性の生活水準の向上だけでなく、子供達、ひいては社会全体に影響を与えるものと考えている。

シウダ・ムヘールはマウリシオ・フネス前大統領の下、大統領夫人でソーシャル・インクルージョン（社会統合）担当大統領補佐官であるバンダ・ピニャト博士がリーダーとなって、2009年に準備が始まり、11年に最初のコロソ CM が完成した。14年6月に新しく大統領となったサルバドル・サンチェス・セレン政権下でも引き続き活発な活動を行っている。

ピニャト大統領補佐官によれば、09年3月の大統領選挙キャンペーンに際して大統領候補であった夫、マウリシオ・フネス氏と共に全国を巡り、エルサルバドルの女性の状況を見ることが出来た。女性達は労働者であり、企業家でもあり、貧しさの中で家族の生活のために闘っていた。しかも彼女達の多くはシングル・マザーであった。そうした状況を見て、女性の生活状況を改善するために政府が手助けする必要性を感じた。これがシウダ・ムヘールというアイデアを思いついたきっかけである。

シウダ・ムヘールのコンセプトは、女性の生活の質を向上させる目的で特別なサービスを通してエルサルバドル政府が行うプログラムである。

- ◆ 女性達の権利について知識と実践を通してエンパワーする、
- ◆ 女性の社会参加を果たす、
- ◆ 経済的自立を果たす、
- ◆ 性に基く差別や暴力を根絶する。

シウダ・ムヘールは一つのインフラの中で、女性達に対して、15の政府機関がそれぞれの分野で異なるサービスを提供する。そこでは、信頼とクオリティに基く環境の下で、タイムリーな形でのサービスが保証されている。

シウダ・ムヘールのもう一つの役割は、障害のある女性や年配の女性に対してもフル・サービスを提供することである。

これら目的のため、シウダ・ムヘールにはピニャト補佐官が説明された以下の5つの構成要素（モジュール）がある。

- 経済的自立
- 性と生殖に関する健康
- 女性に対する暴力の撲滅
- 集合教育
- 子供に対するケア

最初のシウダ・ムヘールが設立された2011年から14年11月までにシウダ・ムヘールが提供したサービスは1,659,975件、サービスの受給者の数は631,131人に上る。ちなみに、エルサルバドルの人口は630万人である。

社会統合庁が行っているこれらの事業によって、日本政府は9月にピニャト大統領補佐官を東京で開催された「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」に招待した。

シウダ・ムヘールは14年の調査によれば、国民の90%が支持している。本プログラムは成功例であり、国際的に知られ、他の国々から支援を受けると共に、他国でも似たようなプログラムが実施されるようになった。

シウダ・ムヘールとは？

シウダ・ムヘール（以下CM）は女性を含む経済的に恵まれない人々を総合的に支援するエルサルバドルの国家活動である。エルサルバドルでは女性は社会の53%を占めており、政府にとって女性達の社会参画を進めることは重要な課題である。

CMはシンプルなモデルであり、経費は関連省庁の予算に組み込まれているため、余計なお金はかからない。生活の質を向上させるため、女性の権利についての知見を高め、社会参加、経済的自立を促し、差別とジェンダーに対する暴力をなくすことを様々なサービスを通して行っている。

CMはどのように機能しているであろうか？15の政府機関²がCMに関わっており、一つの施設（インフラ）の中でそれぞれの分野で様々なサービスを提供している。これら政府機関の資産を利用することで多くのお金をかけずにすんでいる。

一つのインフラに加えて、文化省は主な都市に「文化の家（Casas de la Cultura）」を設置し、女性達をケアしている。CMは人権にフォーカスし、女性職員のみによって運営されている、女性による女性のケアた

った。

国によって異なる側面はあるが、本プログラムは世界中の女性達が直面している課題に共通するユニバーサルな要素を持っている。

私はシウダ・ムヘールは日本にも適用することが出来ると考えている。ジェンダーに対する暴力や男性に比べて女性が貧しいといった傾向があるからである。これらの問題はシウダ・ムヘールのような公的な事業によって減じたり、解決することが出来る。

女性は多くの場合、過少評価されているが、重要な人的資源である。彼女達を支援することは国家に対して利益をもたらすと考える。

めの街である。

CMは5つの構成要素（モジュール）から成り、それぞれのサービスを提供する。それらは、①集合教育、②ジェンダーに対する暴力、③経済的自立、④性と生殖に関する健康、⑤子供に対するケアである。

(1) 集合教育（Education Colectiva）

集合教育のモジュールでは、女性の政治的、経済的、社会的、そして市民としての権利のエンパワーメントのため、異なる女性グループに対してそれぞれ適当な手法を用いて権利の自覚と拡大を促している。我々は地域戦略と共同体造りという観点から、国家だけでなく、NGOや女性の地域ネットワーク、教育現場などと協調している。

(2) ジェンダーに対する暴力（Atención a la Violencia de Género）

ジェンダーに対する暴力の分野では、あらゆる場面でジェンダーに対する暴力を阻止し、減らし、注意を向けること、種々のケースをモニターし、全体として関心を持つこと、すべての機関が暴力の犠牲者に注意



最初のCiudad Mujer（コロン）
2011年3月28日活動開始
出所：Ciudad Mujer ホームページ



農業の実習（コロンのCiudad Mujer）
出所：Ciudad Mujer ホームページ



美容師のコース（ウスルタンのCiudad Mujer）
出所：Ciudad Mujer ホームページ

を払い、再発の無いよう気をつけることに配慮している。中米地域は世界でも性に対する暴力の激しい地域の一つである。

このモジュールでCMが提供するサービスは、危機に対する注意、精神的なセラピー、助言と法的手続き、グループによるサポートと自己管理、積極的なエンパワーメントの推進であり、サービスを提供するのは、検察庁、病院、警察、「女性開発機関（Instituto Salvadoreño para el Desarrollo de la Mujer）」、弁護士事務所（Procuraduría）、文化省である。

ジェンダーに対する暴力あるいは家庭内暴力の犠牲者に対しては、女性機関（Instituto de la Mujer）を通して、心理社会的なケアを行う。かつて女性が殺されているのに告訴されないことがあったが、弁護士は、暴力の犠牲者に対して法的アドバイスを与え、彼らおよびその子供達の権利について理解を促し、保護の手段、様々な権利について知らせる。検察は暴力の犠牲者に対して、恐怖や家庭内暴力、性の暴力などジェンダーに起因する暴力という犯罪に対して注意を払う。病院は身体的暴力および／あるいは性に関する暴力について法廷でそれを明らかにする。警察は女性に対する暴力行為の告訴を受け、現行犯については逮捕する。

文化省を通して、女性は芸術や文化を楽しむ権利を享受する。また、主要都市にある「文化の家（Casas de la Cultura）」を通してアート・セラピーを受けたり、芸術的表現を発揮することで暴力や差別をなくすことが出来る。

(3) 経済的自立

このモジュールでは、女性達が経済的自立を獲得するための機会を作り、自立に導くというサービスを提供することを目的としている。すなわち、女性達が経済活動に参加し、自立するための支援であり、所得、情報、モノおよびサービスにアクセスできるようにす



機械整備のコース（ウスルタンのCiudad Mujer）出所：Ciddad Mujer ホームページ

るのである。

我々の活動は国連のミレニアム開発目標の1番目の「極度の貧困と飢えの撲滅」と、3番目の「ジェンダーの平等推進と女性の地位向上」の達成を目指すものである。

このモジュールでは、地域の生産ネットワークの調査をベースとした国の経済開発計画に基いたサービスが提供される。それらは、職業紹介、履歴書（CV）の書き方、職業安定所、マイクロクレジット、起業支援のための技術援助（マイクロ／小規模起業）、女性起業家による市場開拓、労働者の権利保護に関する情報、アドバイス等々である。

このモジュールでは、住民登録局（registro nacional de personas naturales）、エルサルバドル職業訓練機関（Instituto Salvadoreño de Formación Profesional）、労働・社会福祉省、中小企業庁、農牧省、農牧業開発銀行、マイクロ企業共同基金等がサービスを仲介する。例えば、農業学校では、自給のために農産物を生産するとともに、余った生産物をスーパーマーケットや市場などで売れるようにするといった実践が行われている。

(4) 性と生殖に関する健康（SSR；Salud Sexual y Reproductiva）

性と生殖に関する健康（SSR）というモジュールでは、CMは女性の健康と生命の質の向上に資することを目指す。特に乳がんと子宮頸がん、この二つはエルサルバドルで女性たちの死亡原因の上位に位置づけられているが、これを予防することに努力している。さらに、妊産婦の死亡率を低下し、10代の妊娠を減じることを目指している。

このモジュールにおける事業は、ミレニアム開発目標の5の「妊産婦の健康の改善」にある、目標5Aの妊産婦の死亡率の低下、目標5Bのリプロダクティブ・ヘルスの完全達成にリンクしている。

本モジュールが提供するサービスは、婦人科、内科、マンモグラフィとX線、歯科、精神科、栄養士、薬局、性の健康教育、妊娠の超音波検査、健康診断、保健に関する啓蒙等である。妊婦を家から病院まで輸送するサービスも行っている。

(5) 子供に対するケア

このモジュールでは、教育専門家が子供達をケアしている間に女性達は異なるサービスを利用することが出来る。日本では子供達は社会的に保護されているで

あろうが、エルサルバドルではそうではない。そこで、女性達が子供達の心配をすることなく、彼女達に必要なサービスを受けることが出来るようにする。また、ケアハウスにおいて、暴力の被害を受けた母親達の話聞き、暴力を再発させることなく、子供達を暴力から守るようにする。

子供達についてはジェンダーや人権にフォーカスをあてた遊びを行うようにする。さらに、我々は緊急の場合は精神科医、小児科医、そして栄養士を仕向ける。また、一般の場所を借りて、ベビーベッドを備えたり、授乳所を設けている。

このようなCMの試みについて、これまで多くの国の人達が見学を訪れ、実際の活動を見て支援を頂いた。ブラジル、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、コスタリカ、コロンビアなどラテンアメリカ諸国の他、米国、カナダ、フランス、フィンランド、ドイツ、英国、オランダ、イタリー、日本、スペイン等先進国、そして国際機関の方々である。最近ではインドからも女性担当大臣をお迎えした。

女性の生活は現実社会の変化と共に変化して行く。そのため、CMでは常に新たな提案をし、女性が直面している課題に適切に答えるよう、我々の仕事やサービスを見直している。

そのため、新たな戦略を立ち上げた。その一つは「若い女性の街 (Ciudad Mujer Joven)」である。未成年者の被害が増加している性的暴力、家庭および学校での性的暴力、高い未成年者の妊娠率、ドロップアウト、不法移民、女性殺人等々に対してCMはこの問題にフォーカスを充てることとした。

そのため、我々は学校と協力してCMの若い女性に対して、彼女達の権利に対する意識を高め、職業教育を行い、生活の指針を立てるためのオリエンテーションを行い、性的暴力を防ぎ、健康に注意する等々に対する支援を行うようになった。また、私達は性的暴力を防ぐため、先生方、男性を含めた若者達と共にコミュニティ・モデルを策定した。

もう一つの新しい戦略は「女性の銀行 (Banca de la Mujer)」である。女性達の問題の一つは経済的自立を成し遂げるための資金へのアクセスである。伝統的金融システムは所得の低い女性達を相手にしてこなかった。そのため、我々は「女性の銀行」を設立し、保証基金として機能し、女性達が必要とする資金を自由に得られるようにしたのである。

CMはエルサルバドルで、3年と5ヶ月の間に、5カ所開設され³、発展し続けている。すでに60万人余の女性達が参加し、約200万件のサービスを受けた。

2014年のCID Gallup社の調査によれば、我々の活動はエルサルバドルの人々に好感を持って迎えられており、90%が支持している。CMの成功モデルは国際的にも知られるようになり、外国からの支援を受けたり、外国で似た組織が出来たりしている。

そして今では、社会開発および保護法 (Ley de Desarrollo y Protección Social) として法的な裏付けを得ている。また、女性の平等とエンパワーメントに対する理解を国内だけでなく、国際的にも深めている。

以上のように、CMモデルは現実や地域の状況に沿うよう、常に見直し、女性の生命にかかわる社会的暴力、家庭内暴力、犯罪などに立ち向かい、女性の地位の向上に努めることを目的としている。

CMプログラムが開発途上国に適用できるモデルであり、大きな可能性を持っていることがお分かり頂けたでしょうか？CMはこれまで顧みられることのなかった女性達の現実を変える力を持っている。私はCMがすべての人々を性の暴力から解放し、公平と平等をもたらすモデルとして様々な国で導入されることを期待している。

(要約とりまとめ：岩見元子 協会常務理事)

1 セラヤンディア大使は、エルサルバドル国立大学で生物学を学ばれ、独学で日本語、英語、フランス語を習得、通訳・翻訳家として活躍。2010年に駐日エルサルバドル共和国大使館公使参事官兼代理大使に、11年に大使に就任された。日本の小学校で国際理解教育に関わるなど知日派として知られる。

2 大統領府社会統合局 (SIS)、労働・社会 (防止) 省 (MTPS)、農業開発銀行 (BFA)、マイクロ事業経営者家族の共同ファンド (FOSOFAMILIA)、国家マイクロ・小企業委員会 (CONAMYPE)、国家文民警察 (PNC)、最高裁判所法医学研究所 (Legal Medicine Institute)、司法長官室 (PGR)、訟務長官室 (FGR)、住民 (Natural Persons) 登録局、サルバドル女性開発局 (ISDEMU)、大統領府文化局 (SEC)、専門家育成機関 (INSAFORP)、農牧省 (MAG)、公衆衛生省 (MINSAL)

3 2014年12月、6番目のCMの開所式が行われた。